

| | | | | |
|----------------|--|-------|--------|-------|
| (1) 会議の名称 | 大田区自立支援協議会 地域移行・地域生活支援部会（第6回） | | | |
| (2) 開催日時 | 平成29年12月20日（水）10:00～12:00 | | | |
| (3) 開催場所 | 大田区役所 902会議室 | | | |
| (4) 出席した委員、事務局 | 委員（部会長：青山 明子） | | | |
| | 白井 絵里子 | 山根 聖子 | 相原 美晃 | 鶴田 雅英 |
| | 栗田 総一郎 | 志村 陽子 | 齋藤 信子 | 林 達彦 |
| | 秋葉 照美 | 山田 悠平 | 岡田 あい子 | 帯瀬 和明 |
| | 伊藤 明春 | 山田 紗梨 | 藤牧 裕佳子 | 岡本 洋 |
| | 川島 浩子 | | | |
| | 区職員：小鳥 彰子（健康づくり課健康づくり担当係長） | | | |
| | 区事務局：平野 理恵子・関根 あずさ（障害福祉課） 木伏 正有・森田 好美（障がい者総合サポートセンター） | | | |
| (5) 内容・要旨 | <p>1 確認・連絡事項</p> <p>(1) 司会：志村委員、記録：齋藤委員</p> <p>(2) 出欠者の確認</p> <p>(3) 配布資料の確認</p> <p>(4) 事務局からの連絡事項</p> <p>①2月作業部会の確認 →2月9日（金）10時00分～</p> <p>②2月部会ゲストスピーカーについて →横浜で障害者自立生活アシスタント事業を行っている望月氏に講師を依頼する。（当日資料あり）</p> <p>③次期おたおた障がい施策推進プラン パブリックコメントの周知</p> <p>④発達障害シンポジウムの情報提供</p> <p>2 部会長の挨拶</p> <p>3 前回の振り返り（前回のご意見カードと議事録を参考） →・限られた時間で仕方はないが、もう少し時間があると良かった。 ・1カ月後に振り返るときに覚えていられるのか。 などの意見があった。</p> <p>4 議題</p> <p>(1) 公開勉強会のふりかえり →当日はアンケートの集約より36名の参加。 ・チラシの段階から重症心身障害者について触れることを周知していれば参加者がもっと増えたのではないかと。 ・もっと多くの人に聞いてほしい良い内容であった。事業所としてあきらめているところがある。話を聞いて、今ある制度をもっと発展させてい</p> | | | |

なく本人の意見をどう汲んでいけるのかが大切。体験した結果「だめ」で終わってはいけない。受け入れ側もルールを柔軟にすることが必要。

B 班

- ・すぐにできる改善として「障がい者福祉のあらまし」を修正しわかりやすく情報発信する。わかりやすさのアンケートを区民に実施する。
居住の場・日中の場と事業所の連携には、複数の課題があり、多くの関係機関が事業所の強みを生かしながらチームで支援する必要がある。支援する側も孤立させない仕組みが必要。住む場所の確保のために既存の建物を活用していく。

A 班

- ・意思決定についてすぐに取り組めること。本人中心のケア会議を複数回行い、支援を広げていく。体験をする前にまずは見学が必要であり、多くの資源を「見学ツアー」する。地域生活のイメージをもつために友人や知人と会う。生活を振り返るために、また、先の生活を考えるために、自分史を作る支援をし、本人と生活の設計図を確認することも大切。施設の人から地域の人に支援を広げる。地域移行支援事業（障害福祉サービス）を周知し活用する。

5 グループホーム連絡会報告

- ・知的障がい者のグループホーム連絡会で話し合った。アンケートについては、部会の意見もふまえて記入してもらうことになった。

6 その他（委員からの情報提供など）

- ・おおた TS ネットより取り組みの情報提供。

※次回（第7回）日程

作業部会 1月24日（水） 10時～

部 会 1月31日（水） 10時～